

～ワカモノのシカク～

ワカモノと言えば「大学生」、というほどに大学生はフツウの存在となった。数字の上では、大学進学希望者が全員入学可能になるのも間近だ。昨年の統計データ（文部科学省平成20年度『学校基本調査』）を見てみよう。日本の高校卒業者の52.8%が大学等に進学し、19.0%が就職している。大学進学率が50%を超えた状態を、「大学のユニバーサル化」と呼ぶらしい。もはや、日本社会は「大学生」≒「ワカモノ」と見てもよさそうな時代なのだ。そんな彼らへの調査結果を、はじめにシカクという言葉から辿ってみる。

まず、ワカモノの「視覚」はどうだろう。

テレビ、ビデオ、ゲーム、ケイタイと、彼らは四角い画面を社会の窓として育ってきた。膨大な情報を狭い画面から「見る」ことに長けている。そんな彼らには、すでに衰えたり、偏ったりしてしまったオトナたちには認識できない、何かが見えているのかもしれない。

似ているけれど、彼らの「視角」はどうだろう。

ヒトの目は2つとも前向きに付いている。だから、ウマなどと違って振り向かないと横や後ろが見えない。彼らは、しばしば、首を回し、振り返っては左右や後方の視角の中に何かを探しているように見える。オトナが過去を懐かしみ、今を乗りきろうとするのとは違うようだが、確かに後ろや横を気にしている。

そんな彼らに「死角」は無いのだろうか。

じつは、前方や上方に彼らの意外な死角があるのかもしれない。

いや、意図して死角を設けているのかもしれない。目をつぶっているのかと疑いたくなるほどに、上向き、前向きにワカモノの死角がありそうだ。なぜだろう？

対面してきた大学生たちは、みんな優しかった。丸かった。「四角」くなかった。

ワカモノ同士でも、オトナと対面しても、角が無いどころか液体のようだった。

そのワカモノたちの角の無さに対して、オトナたちは「覇気がない」と不満を浴びせる。

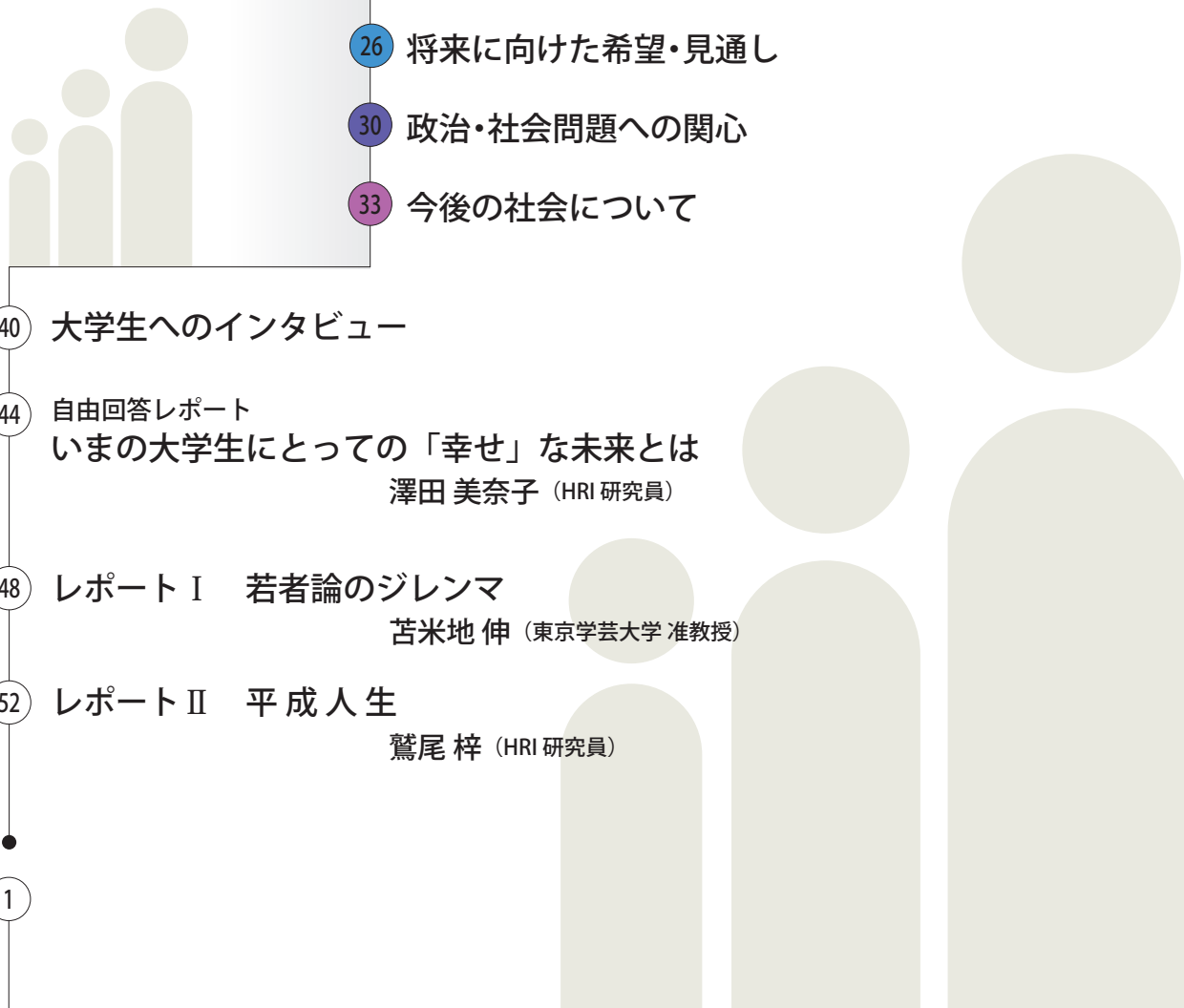
ところで、大学生とはどんな「資格」を持っているのだろう。

オトナの生き方の仮免許なのか、コドモの生き方の修了証なのか。いやいや、じつは彼らこそ、目の前に広がるカオスの海を渡りきる大航海の水先案内の有資格者かもしれない。オトナの勘違いで未来への航路を間違ってはならない。Bon Voyage!

HRI | リサーチレポート
「大学生の価値観とライフスタイル」

C O N T E N T S

もくじ

- 
- 2 巻頭メッセージ
オトナからみる大学生、期待そして願い
中間真一 (HRI 主席研究員)
- 6 調査概要
- 7 回答者のプロフィール
- 10 大学生活について
- 12 現在の生活の満足度
- 13 家計・消費について
- 16 就職・働き方について
- 19 家族観・ワークライフバランス
- 23 自己イメージ・人とのかかわり方
- 26 将来に向けた希望・見通し
- 30 政治・社会問題への関心
- 33 今後の社会について
- 40 大学生へのインタビュー
- 44 自由回答レポート
いまの大学生にとっての「幸せ」な未来とは
澤田 美奈子 (HRI 研究員)
- 48 レポート I 若者論のジレンマ
苫米地 伸 (東京学芸大学 准教授)
- 52 レポート II 平成人生
鷺尾 梓 (HRI 研究員)